

と表現できる<sup>59</sup>。筆者は2000年9月にセンターを訪れたが、保育室にはかつて訪れたどの機関よりも活気が感じられ、スタッフの熱意を感じた。それは個人的な感覚に過ぎないかもしれないが、センターの内容を知るにつれてその感覚は強まっている。

## E. 結論

家族支援あるいは子どもの成育環境整備という観点から、親と子どもに対する関心を共有し、子どもの発達・教育に焦点づけたかかわりを強化するとともにそのプロセスを親自身のエンパワーメントたらしめる援助者の育成を、ひとつの課題として認めることができる。さらに、子ども・親・援助者のいずれをも組み込んだ、知識基盤社会における生涯学習のシステム構築にむけて歩みを進めるイギリスという国のありようは、今後の日本社会における子どもの生育環境整備にあたり、示唆に富むひとつのモデルを示すものである。

## F. 健康危険情報

(総括研究報告書に記載)

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 「生涯学習を核とした家族支援が子どもの生育環境整備に果たす役割について；イギリスのペングリーン・センターにみる」『神戸女子大学文学部研究紀要』第40巻、2008年
- 2) 「イギリスにおける子どもの生育環境整備の政策的展開について；子ども・学校・家族省(DCSF)の設置とその経緯にみる」、『保育の研究』第22号、2008年

## 2. 学会発表

- 1) 「保育機関の運営に求められる専門性；イギリスの子どもセンターにみる」(個人発表)2008年5月17/18日・日本保育学会第61回大会発表予定。
- 2) 「保育評価への多様なアプローチ；異なる評価方法間の対話」(自主シンポジウム)同上。

## H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし。

知識と理解；以下の事柄を踏まえての実践を行い、他者にも伝える

- S1 「早期基礎段階」の原理と内容、実践方法
- S2 子どもの誕生、基礎段階、その後の経過にみられる個別性と多様性
- S3 内外の状況が子どものウェルビーイング、発達、学習、行動に与える影響
- S4 福祉サービス等の枠組みおよび子どもの保育環境との関連
- S5 保健衛生や安全基準についての法律・規制と子どものウェルビーイングの増進、および保育環境との関連
- S6 子どもの心身のウェルビーイング、発達と学習を保障するために他の専門家との連携

効果的な実践；自らが以下の基準に従うと共に他者もその基準に沿えるように指導・援助する

- S7 子どもがすべての可能性を発揮できるように期待し、関与する
- S8 子どもが自信をもち安心して発達し学習できるような安全・誘発的・刺激的・奨励的な環境を整える
- S9 子どものニーズに応じ、発達し学習できるような、偏りがなく柔軟な日課や週の予定を提供する
- S10 子どもの活動や発達、成長を体系的かつ注意深く状況把握するためにきめ細かな観察手法及び他の方法を用い、効果的な実践を行うための情報共有・立案をおこなう
- S11 子どもが発達し学習できるような、子どもの自発性に基づくまたは保育者に導かれる安全で適切な経験、活動、遊びの機会を室内外あるいは施設外で計画し提供する
- S12 多様性を考慮し公正と包摂を促進するような、子どもの年齢、興味、能力に応じた範囲で保育内容を選択し、準備する
- S13 個別的な保育環境を整える
- S14 発達と学習の筋道の基本を理解し子どもの次の段階は何かを明確に理解したうえで、子どもが発達と学習の次の段階に進めるように適切に応答する
- S15 子どもの言語とコミュニケーション技能の発達を援助する
- S16 子どもたちとの思考のプロセスを継続させる
- S17 望ましいふるまいの効果的な指導方法と子どもの社会的・情緒的・行動的スキルを発達させることをとおして、子どもの肯定的な行動、自律、自主性を向上させる
- S18 子どもの人権、平等、包摂と差別をしない行動を推進する
- S19 子どもの健康、安全、心身のウェルビーイングを増進させる安全な環境を整え、実

### 践する

- S20 どのようなときに子どもの危機や危険が訪れるかを認識し、子どもを保護するためにどのように行動するかについて知る
- S21 子どもの発達と学習の伸長を測定し記録・報告を行い、保育を変化させる根拠として用いる
- S22 子どもが、自分が何を達成したのかを理解し、次に何をすべきかを考えられるように建設的で細やかなフィードバックを行い、適切な時にこどもが自分のしたことについて考え、評価し、もっとできるようになるように励ます
- S23 時期により、あるいは個人的な事情で進歩や発達、ウェルビーイングが損なわれているような子どもを見分け援助し、適切な時期に同僚や専門家に相談をする
- S24 質の高い保育を提供するに当たっての説明責任を示す

### 子どもとの関係；自らが以下の基準に従うと共に他者もその基準に沿えるように指導・援助する

- S25 公平で尊重・信頼をしあい、支持的・建設的な関係を確立する
- S26 誕生から基礎段階の最後までコモや課で効果的なコミュニケーションを行う
- S27 話をよく聞き、内容に注目し、子どもなりの見方に価値を置き、尊重をする
- S28 肯定的な見方と態度を示し、子どもからの期待に応えるようなふるまいをする

### 家族や子どもの世話をする人とのコミュニケーションと連携；自らが以下の基準に従うと共に他者もその基準に沿えるように指導・援助する

- S29 家族や親／世話をする人が子どもの発達、ウェルビーイング、学習に影響を与えることを認識し尊重する
- S30 公平で尊重・信頼をしあい、支持的・建設的な関係を確立する
- S31 子どもを養育し成長・発達を助けるために家族や親／世話をする人と家庭と保育の場双方で連携をする
- S32 いろいろな機会を捉えて、家族や親／世話をする人と家庭と保育の場での子どものウェルビーイング、発達、学習についての情報を交換し共有する

### 協同に向けて；以下の基準に従う

- S33 同僚との協力・協同を職場風土として確立し維持する
- S34 各自が役割を自覚し、子どもが計画されたねらいを達成できるように効果的に関わる
- S35 園の方針を感化しその実行に向けて連帯責任を持って取り組む
- S36 複数の専門家での協同を行い、一致した見解をもって計画・立案しそれに基づいて日常的な実践の中で介入を行う

専門家としての資質の向上：自らが以下の基準に従うと共に他者もその基準に沿えるよう  
に指導・援助する

- S37 リテラシー・ニューメラシー、ICT（情報伝達技術）についての技能を高め子どもに対する業務とより広範な専門的活動に活用する
- S38 自らの実践を省察・評価し、必要に応じて修正を行い、専門家としての資質の向上に必要なことを見極め責任をもって遂行する
- S39 革新に向けて創造的・建設的であり現状に満足することなく、利点と進歩を見極められるなら実行に移す

<sup>1</sup> Department for Children, Schools and Families=DCSF

<sup>2</sup> Kamerman,S. & Kahn,A. (1978) *Family Policy*, Columbia University Press.

<sup>3</sup> 埋橋玲子 (2007), 『チャイルドケア・チャレンジーイギリスからの教訓』法律文化社.

<sup>4</sup> 『ベヴァリッジ・レポート』(1942).

<sup>5</sup> Pugh,G.(2006) 'The Policy Agenda for Early Childhood Services', in Pugh (ed.) *Contemporary Issues in the Early Years*, Sage Publications.

<sup>6</sup> この年齢段階はキィ・ステージ (KS) 1から4と呼ばれる。ナショナル・カリキュラムでは、英語・算数(数学)・理科(科学)が中核科目として、技術・美術・音楽・歴史・地理・体育が基礎科目として位置づけられ、宗教教育が導入された。11歳以後には外国語が基礎科目に加わる。中核・基礎科目のうち音楽・美術・体育を除く科目で義務教育終了時に到達すべき水準がレベル10と規定され、KS1ではレベル2、KS2ではレベル4、KS3ではレベル5～6、KS4ではレベル6～7に到達することが目標とされる。

<sup>7</sup> School Curriculum and Assessment Authority

<sup>8</sup> 埋橋玲子 (1994) 「ライジング・スタンダードのめざすもの」『少年育成』

<sup>9</sup> 埋橋玲子 (2007) 「イギリスにおける保育サービスの商品化ー保育従事者の能力育成と資格階梯にみるー」『神戸女子大学文学部紀要』第40巻.

<sup>10</sup> National Vocational Qualifications= NVQs

<sup>11</sup> 埋橋玲子 (1997) 「変わりつつあるイギリスの幼児教育」『保育学研究』第35巻第2号.

<sup>12</sup> *The Desirable Outcomes for Children's Learning*. 後に *Early Learning Goal* に改訂される。

<sup>13</sup> このアセスメントは、子どもの個別的な学習ニーズに効果的に対応するための情報を提供すること、後に子どもの進歩の程度を分析することができるように子どもの到達度を測定し数値によって表す、という二つの目的を持つ。測定されるのはリテラシーとニューメラシーに関係する、読み・書き・話すことと聞くこと・算数・個人的社会的発達  
の5つの分野である。

<sup>14</sup> HMSO (1989) *An Introduction to The Children Act 1989*.

<sup>15</sup> Baldock,P. (2001) *Regulating Early Years Services*, David Fulton Publishers Ltd.

<sup>16</sup> In Baldock,P.(2001).

<sup>17</sup> Home Office(1998) *Family Support*.

- 
- 18 Sure Start
- 19 一種の租税減免制度。
- 20 DfEE (1997) *Meeting the Childcare Challenge*.
- 21 Early Excellence Centre.
- 22 Office for Standard in Education=OFSTED
- 23 査察を受けた保育機関等の幼児教育提供部分に対して補助金が与えられるので、たとえばデイ・ナースリーに子どもを通わせていても可。
- 24 Early Years Development and Childcare Partnership.
- 25 Comprehensive Spending Review 21章 (1998).
- 26 DfES, *Sure Start National Evaluation*, June 2002.
- 27 Government's 2002 review of childcare.
- 28 DfES (2003) *Every Child Matters*
- 29 Hawker,D.(2006) 'Joined up Working—the Development of Children's Services', in Pugh(ed.)(2006).
- 30 Ten Year Strategy: Choice for Parents, the Best Start for Children.
- 31 Taylor,J.& Woods,M. (2007) *Early Childhood Studies*, Hodder Arnold
- 32 埋橋玲子 (2007) 「子どもサービス」と「子どもの空間」—イギリスの乳幼児のケアと教育に見る「質」の保証の動向—、日本保育学会第60回大会発表。
- 33 *Common Core of Skills and Knowledge for the Children's Workforce*
- 34 <http://www.dfes.gov.uk> (2007年8月現在)
- 35 Department for Innovation, Universities and Skills =DIUS.
- 36 Department for Business, Enterprise and Regulatory Reform =DBERR.
- 37 Department for Education and Skills=DfEE
- 38 Department of Trade and Industry=DTI
- 39 Kamerman,S. & Kahn,A. (1994) *A Welcome for Every Child; Care, Education, and Family Support for Infants and Toddlers in Europe, ZERO TO THREE*.
- 40 Makins,V., "11.Pen GreenCentre for under fives and their families, Corby", in Makins, V. (1997) *Not Just a Nursery...; Multi-agency Early Years Centres in Action*, National Children's Bureau.
- 41 コービーはノーザンプトンシャー・カウンティ内でソーシャル・サービス局の保護下に置かれる子どもの数が40人と最も少ないところである。同カウンティで次に少ない地域では65人である。
- 42 Whally,M. 'Working as a Team', in Pugh,G. ed. (1996) *Contemporary Issues in the Early Years*, National Children's Bureau.
- 43 上記に同じ。
- 44 日本でいうなら私立保育所であるが、基本的に公的な補助金はなく、親からの保育料のみで運営されている。したがって保育料は高価である。
- 45 ファミリー・デイケア (家庭的保育、自宅で他人の子どもを預かり世話をする) を提供することを職とする人たちに対するイギリスでの呼称。
- 46 母親たちの自主保育活動。
- 47 Penn,H.(2000) Is Working with Young Children a Good Job?, in Penn,H.(ed.) *Early Childhood Services; Theory, Policy, and Practice*, Open University Press.
- 48 放送大学に相当。
- 49 埋橋玲子(2007) イギリスにおける保育サービスの商品化—保育従事者の能力育成と資格階梯にみる—、『神戸女子大学文学部紀要』第40巻。
- 50 William,S.(2005, 2006) *Evaluation of Naional Professional Qualification for Integrated Centre Leadership(NPQICL) Plot Programme. Final Evaluation Report: Draft 1*. Henly-on-Thames: Henley Management College
- 51 プロジェクトの正式名称は「父親であること・母親であること・子どもの世話の分担 (Fatherhood, motherhood and sharing the responsibilities in caring for children)」であった。

- 
- 5<sup>2</sup> Chandler,T. & Dennison,M.( 1997) *Daring to Care-Men and Childcare*, in Whally,M. (ed.) *Working with Parents*, Hodder & Stoughton.
- 5<sup>3</sup> Pascal,C. & Bertram,T. (1997) *Effective Early Learning Case Studies in Improvement*, Paul Chapman Publishing Ltd.
- 5<sup>4</sup> Bruce,T. et all (1997) Case Study Two-A Family Centre, in Pascal,C. & Bertram,T (ed.) *Effective Learning Case Studies in Improvement*, Paul Chapman Publishing.
- 5<sup>5</sup> 現在では状況が変わり、就学前の乳幼児段階のナショナル・カリキュラムがある。
- 5<sup>6</sup> Margy Whalley & the Pen Green Centre Team (2001) *Involving Parents in their Children's Learning*, Paul Chapman Publishing.
- 5<sup>7</sup> 舟場正富 (1998) 『ブレアのイギリス』 PHP 新書
- 5<sup>8</sup> この点は日本の公立保育所とは大きく様相を異にする。現在のイギリス政府は、公的な保育サービスの対象を費用補助あるいは2年間の無償幼児教育の提供というかたちで一般家庭にまで拡大し、考え方としてはスティグマ性を取り去る方向で提供している。だが、実際には費用補助は財源の関係で低所得家庭に限られる。
- 5<sup>9</sup> 56 に同じ。

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Anne T., Segal U.	Implications of Japan's center-based night care: A one-year follow-up	Early Childhood Education Journal	35(3)	293-299	2007
Anne T., Segal U.	Anne T., Segal U. Child development and childcare in Japan.	Journal of Early Childhood Research	6(3)	In press	2008
安梅勅江、篠原亮次、杉澤悠圭、丸山昭子、田中裕、酒井初恵、宮崎勝宣、小林昭雄、宮本由加里、天久真吾、埋橋玲子	幼児期における子育て環境が学童期の子どもの心身の健康に及ぼす影響	厚生の指標	54(6)	20-25	2007
安梅勅江、丸山昭子、田中裕、酒井初恵、宮崎勝宣	母親のストレスの子育て環境と子どもの発達との複合的な関連性—保育園を利用する1歳児の全国調査結果から—	こども環境学研究	2(1)	159-164	2007
安梅勅江、矢藤優子、篠原亮次、杉澤悠圭	子どもの社会能力評価「かわり指標」の妥当性と信頼性	日本保健福祉学会誌	14(1)	23-32	2007
西村真実、田中裕、酒井初恵、宮崎勝宣、篠原亮次、杉澤悠圭、丸山昭子、安梅勅江	延長型学童保育ニーズ実態と課題に関する研究	日本保健福祉学会誌	13(2)	19-27	2007
高橋雄介、岡田謙介、星野崇宏、安梅勅江	就学前児の社会的スキル—コホート研究による因子構造の安定性と予測的妥当性の検討—	教育心理学研究	56(1)	In press	2008
安梅勅江	コミュニティ・エンパワメント—当事者主体のシステム作り—	小児の精神と神経	48(1)	in press	2008
安梅勅江	保育士パワーアップ講座	日本小児医事出版		1-120	2007

発表者名	タイトル	発表誌名	巻号	ページ	年
安梅勅江、田中裕、宮崎勝宣、酒井初恵、埋橋玲子	根拠に基づく保育実践—経験と科学に支えられた質の高い保育を目指して—	日本保育学会第60回大会発表論文集		154—155	2007
埋橋玲子	「子どもサービス」と「子どもの空間」—イギリスの乳幼児のケアと教育に見る「質」の保証の動向—	日本保育学会第60回大会発表論文集		924—925	2007
埋橋玲子	保育の質の評価と向上への保育者の関与—イギリス・EEL（効果的な初期学習）プロジェクトにみる—	日本乳幼児教育学会第17回大会研究発表論文集		130—131	2007
埋橋玲子	『保育環境評価スケール』の活用—「第3者評価の次に来るもの」	大阪子育て人権情報センター発行『ちやいるどネット OSAKA』	77	4—7	2007
埋橋玲子	『保育環境評価スケール』を日本語に訳した理由	季刊保育問題研究	229	30—48	2008
埋橋玲子	保育機関の運営に求められる専門性—イギリスの子どもセンターにみる—	日本保育学会第61回大会発表論文集		投稿中	2008
安梅勅江、藤森平司、大島剛、保坂佳一、埋橋玲子	保育評価への多様なアプローチ—異なる評価方法間の対話—	日本保育学会第61回大会発表論文集		投稿中	2008
埋橋玲子	生涯学習を核とした家族支援が子どもの生育環境整備に果たす役割について—イギリスのペングリーン・センターにみる—	神戸女子大学文学部紀要	41	投稿中	2008
埋橋玲子	イギリスにおける子どもの生育環境整備の政策的展開について—子ども・学校・家族省（DCSF）の設置とその経緯にみる—	保育の研究	22	投稿中	2008